

潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度の 基準関連尺度による信頼性・妥当性

花田 裕子¹・永江 誠治¹・大石 和代¹・本田 純久²

要 旨 育児ストレスは、重要な虐待要因であることは多くの研究結果が示している。日本の研究では、まだ潜在化している児童虐待リスクと育児ストレスとの関連性を検証している研究は少ない。本研究は、研究者が開発を進めている潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度の基準関連妥当性の検証を育児ストレス尺度（Parenting Stress Index：PSI）によって行い、潜在的児童虐待リスクと育児ストレスの関連性を明らかにすることを目的とした。対象は、2つの幼稚園の通園児の母親152名を解析対象とした。母親の年齢は、平均33.9歳（23-43 SD=4.0）。母親の虐待傾向養育態度尺度得点は52（29-74）であった。児童虐待リスクスクリーニング尺度得点は72（29-105）であった。PSIの総合得点は、平均値186（120-148）であった。児童虐待リスクスクリーニング尺度と母親の虐待傾向養育態度尺度のSpearmanの相関係数は、0.45（ $P<0.01$ ）であり、開発時の0.41とほぼ同じ結果となり中程度の相関が認められ再現性が確認された。児童虐待リスクスクリーニング尺度とPSIの合計得点とのSpearmanの相関係数は-0.61（ $P<0.01$ ）と高い相関が認められた。

保健学研究 19(2): 51-58, 2007

Key Words : 児童虐待, 育児ストレス, リスク因子, 母親, 幼児

（2007年1月23日受付）
（2007年3月22日受理）

1. はじめに

育児ストレスは、重要な虐待要因であることは多くの研究結果が示している^{1,5,11,12}。子どもの存在や育児は、母親の生活に生きがいや幸福感をもたらすと同時に、不安や悩みをもたらす。幼稚園児を持つ母親を対象にした、育児ストレスの調査²では、母親の52.9%が育児に関する不安があると回答していた。育児は日々の行為であり、そこから生じるストレスは、多様な日常ストレス（daily hassles）¹³の蓄積となる可能性がある。母親自身の過去の体験からネガティブな認知を持っているためにストレスを増加させて、ストレス管理の能力が低下して、子どもに対して効果的なしつけができず虐待行動となりやすい^{7,8}。

虐待傾向の親は、自分の子どもを融通が利かない、行儀が悪い、気まぐれ、攻撃的、多動で社会性が低いと子どもを評価している^{6,10}。自分が親から低い評価を受けている母親は、厳しすぎるしつけを含めた虐待者になるリスクが高くなる¹⁰。個人特性としての認知は、親が非現実的な成長を期待する場合もあるが、子どもを受容的に認知できないと、子どもを能力の低い、わざと良くない振る舞いをするとう認知しやすい。その結果、しつけは厳しいものとなり虐待リスクが高くなる。これは、認知の問題と問題解決能力、怒りのコントロール、ストレス

管理能力不足が相互に関連しあって親役割へのストレスに影響する¹²。

母親の育児ストレスを早期に支援するために、市町村レベルで子育て支援センターの設置などの取り組みがされているが、児童虐待の通告事例は、2005年には3万件以上であり、児童虐待の死亡例は2004年に53例あり地域のネットワークが十分に機能しているとはいえない現状もある。日本の研究では、まだ潜在化している児童虐待リスクと育児ストレスとの関連性を検証している研究は少なく、本研究は、研究者が開発を進めている潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度の基準関連妥当性の検証を育児ストレス尺度によって行うことを目的とした。

2. 研究方法

1) 対象および期間

研究者が、1999年から育児相談や子どもと保護者への講演活動を行っている2つの幼稚園の通園児の母親222名を対象とした。回収されたデータから未回答の多い回答1名、母親の年齢が未記入1名、実母以外の回答3名を除いた152名を解析対象とした。開発時の研究で虚偽尺度として使用した「社会的望ましき尺度：SDS」⁹10項目を本研究でも行ったが、虚偽の回答の可能性が高いとされる10点満点中8点以上の高得点者はいなかった。

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科看護学講座

2 長崎大学熱帯医学研究所

調査期間は、2004年10月から11月の約2ヶ月間であった。

2) データの収集方法

研究の目的とプライバシー保護について明記した文章を質問紙に同封して幼稚園教諭が配布して、回収は、幼稚園に回収ボックスを設置して留め置き法とした。157名から回答があり回答率は71%であった。

3) 倫理的配慮

2つの幼稚園の管理者に調査目的を口頭および文章で説明して協力の承諾を得た。

母親に研究の目的とプライバシー保護について明記した文章を質問紙に同封したものを幼稚園教諭が配布した。回収は幼稚園に回収ボックスを設置して留め置き法として回答に強制力が生じないように配慮した。回答をもって調査協力の同意とした。本研究は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科倫理委員会にて審査を受けて承認を得て実施した。

4) 解析方法

潜在的児童虐待リスクは、現在開発途上の潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度⁴⁾を用いた。潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度は「母親の被養育経験」「育児セルフエフェカシー」「近くの支援者」の3尺度21項目から構成され、クロンバック α 係数は、「母親の被養育経験」0.92、「育児セルフエフェカシー」0.81、「近くの支援者」0.80で高い相関が検証されている。この尺度は得点が低いほど虐待リスクが高いことを示している。育児ストレスは日本語版Parenting Stress Index: PSI¹³⁾を用いた。PSIは、米国のAbidin¹⁾によって1986年に開発され、1999年に奈良間らが作成した日本語版は「子どもにかかわるストレス」7下位尺度38項目、「親自身のかかわるストレス」8下位尺度40項目の計78項目で構成されている。クロンバック α の相関係数は、総得点0.94、子どもに関わる下位尺度合計得点0.90。親自身に関わる下位尺度0.92、各下位尺度でも0.64-0.86と、信頼性と妥当性が検証されている。PSIは1ヶ月から12歳までの子どもを育児中の親を対象とする調査用紙であり、得点が高いほどストレスが高いことを示している。PSIは、対象の得点が85パーセント以上の場合ハイリスクであり、25パーセント以下も、子どもへの関心の低さと見てハイリスクと判断することを基準としている。しかし、本調査では、外部基準尺度として使用していることと対象数が152名と少ないことから、PSIによるリスク群の解析は行わなかった。

外部基準尺度として虐待傾向を測定する尺度は、母親の虐待傾向養育態度尺度³⁾を用いた。この尺度は「力に頼らない養育態度」7項目、「自己肯定感を育む養育態度」5項目、「自己抑制を教える養育態度」3項目の15項目から構成された母親の養育態度を測定する尺度で、

得点が低いほど不適切な養育態度のリスクが高いことを示す。 α 係数は0.80、因子別では0.80、0.72、0.81であり信頼性が検証されている。

児童虐待リスクスクリーニング尺度およびPSIの得点を算出した。次に児童虐待リスクスクリーニング尺度と母親の虐待傾向養育態度尺度、PSIと母親の虐待傾向養育態度尺度および児童虐待リスクスクリーニング尺度とPSIの相関をSpearmanの相関係数で解析を行った。

3. 結果

1) 各尺度の得点

母親の年齢は、平均33.9歳(23-43 SD=4.0)。母親の虐待傾向養育態度尺度得点は、合計得点平均値52(29-74)であった。下位尺度では「力に頼らない養育態度」の平均値は24(12-34)、「自己肯定感を育む養育態度」の平均値は20(11-25)、「自己抑制を教える養育態度」の平均値は12(6-15)であった。(表1)。

表1. 母親の虐待傾向養育態度質問項目尺度および児童虐待リスクスクリーニング尺度得点

| 母親の虐待傾向養育態度質問項目 | |
|-----------------|-------------------------|
| 力に頼らない養育態度 | 24 (12-34) ^a |
| 自己肯定感を育む養育態度 | 20 (11-25) ^a |
| 自己抑制を教える養育態度 | 12 (6-15) ^a |
| 尺度合計得点 | 52 (29-74) ^a |

a = Medium (minimum-maximum)

児童虐待リスクスクリーニング尺度の平均値は72(29-105)であった。下位尺度で「被養育経験」で平均値38(15-50)、「育児セルフエフェカシー」で平均値26(10-35)、「近くの支援者」で平均値16(4-20)であった(表2)。PSIの総合得点は、平均値186(120-276)であった。下位尺度の子どもに関連する尺度合計得点は、平均値83(45-134)であり、親に関連する尺度合計得点は、平均値101(59-148)であった(表3)。PSIは4-5件法の回答で最高得点388点、最低得点76点である。

表2. 児童虐待リスクスクリーニング尺度得点

| 児童虐待リスクスクリーニング尺度 | |
|------------------|----------------------------|
| 被養育経験 | 38.0 (15-50) ^a |
| 育児セルフエフェカシー | 26.0 (10-35) ^a |
| 近くの支援者 | 16.0 (4-20) ^a |
| 尺度合計得点 | 72.0 (29-105) ^a |

a = Medium (minimum-maximum)

表3. PSI得点

| 子どもに関わる下位尺度 | |
|----------------------|----------------------------|
| C-1: 親を喜ばせる反応が少ない | 12.0 (8-24) ^a |
| C-2: 子供の機嫌の悪さ | 17.0 (7-33) ^a |
| C-3: 子供が期待通りに行かない | 10.0 (5-21) ^a |
| C-4: 子供の気が散りやすい/多動 | 15.0 (5-25) ^a |
| C-5: 親につきまとう/人に慣れにくい | 12.0 (5-25) ^a |
| C-6: 子供に問題を感じる | 9.0 (4-19) ^a |
| C-7: 刺激に過敏に反応/慣れにくい | 8.0 (4-17) ^a |
| C-a: C-1~C-7の合計 | 83.0 (45-134) ^a |

| 親自身に関わる下位尺度 | |
|-------------------|------------------------------|
| P-1: 親役割によって生じる規制 | 20.0 (7-34) ^a |
| P-2: 社会的孤立 | 16.0 (7-29) ^a |
| P-3: 配偶者との関係 | 11.0 (5-25) ^a |
| P-4: 親としての有能さ | 21.0 (8-31) ^a |
| P-5: 抑うつ・罪悪感 | 10.0 (4-20) ^a |
| P-6: 退院後の気持ち | 8.0 (4-19) ^a |
| P-7: 子供に愛着を感じにくい | 7.0 (3-15) ^a |
| P-8: 健康状態 | 6.0 (3-15) ^a |
| P-a: P-1~P-8の合計 | 101.0 (59-148) ^a |
| 尺度合計得点 | 186.0 (120-276) ^a |

a = Medium (minimum-maximum)

2) 児童虐待リスクスクリーニング尺度と母親の虐待傾向養育態度尺度の相関

児童虐待リスクスクリーニング尺度の再現性を検証するために、本尺度開発時と同様に母親の虐待傾向養育態度尺度との相関を求めた(表4)。2つの尺度のSpearmanの相関係数は、合計得点間では、0.45 (P<0.01)であり、開発時の解析結果0.41とほぼ同じ結果となり中程度の相関が認められ再現性が確認された。母親の虐待傾向養育態度尺度の合計得点と児童虐待リスクスクリーニング尺度の各下位尺度の相関係数は、「被養育経験」は、0.47 (P<0.01), 「育児セルフエフェカシー」は、0.43 (P<0.01), 「近くの支援者」は、0.16 (P=0.05)と中程度の相関が認められた。下位尺度間で相関が認められ

なかったのは、児童虐待リスクスクリーニング尺度の「近くの支援者」と、母親の虐待傾向養育態度質問項目の「力に頼らない養育態度」であり相関係数0.08であった。開発時は、0.25と相関が中程度あり有意差があった結果とは相違があった。開発時との違いは「被養育経験」と「力に頼らない養育態度」が開発時では相関が0.15であったが、本研究では0.38と相関がより強い相関を示す結果となった(表5)。「近くの支援者」以外では、母親の虐待傾向養育態度尺度の下位尺度「力に頼らない養育態度」「自己肯定感を育む養育態度」「自己抑制を教える養育態度」と本尺度の下位尺度間の相関は、0.14から0.38であり開発時の0.15から0.37とやや弱い相関を含むが同様に社会医療的に有意な相関があった。

表4. 児童虐待リスクスクリーニング尺度と母親の虐待傾向養育態度質問項目のSpearman相関係数 (n=152)

| 児童虐待リスクスクリーニング尺度 | 母親の虐待養育態度質問項目 | | | 母親の虐待養育態度質問項目 | | | 合計点 | P値 |
|------------------|---------------|-------|--------------|---------------|--------------|-------|------|-------|
| | 力に頼らない養育態度 | P値 | 自己肯定感を育む養育態度 | P値 | 自己抑制を教える養育態度 | P値 | | |
| 被養育経験 | 0.38 | <0.01 | 0.32 | <0.01 | 0.25 | <0.01 | 0.47 | <0.01 |
| 育児セルフエフェカシー | 0.25 | <0.01 | 0.32 | <0.01 | 0.27 | <0.01 | 0.43 | <0.01 |
| 近くの支援者 | 0.08 | 0.33 | 0.16 | 0.05 | 0.14 | 0.09 | 0.16 | 0.05 |
| 尺度合計 | 0.33 | <0.01 | 0.34 | <0.01 | 0.25 | <0.01 | 0.45 | <0.01 |

表5. 一次調査と二次調査の相関係数の比較

| 母親の虐待傾向養育態度質問項目 | | 力に頼らない 養育態度 | P値 | 自己肯定感を 育む養育態度 | P値 | 自己抑制を教える 養育態度 | P値 | 合計点 | P値 | |
|----------------------|------|----------------|------|------------------|------|------------------|------|-------|------|-------|
| 児童虐待リスク スクリーニング尺度 | 一次調査 | 被養育経験 | 0.15 | 0.78 | 0.29 | <0.01 | 0.17 | 0.40 | 0.26 | <0.01 |
| | 二次調査 | | 0.38 | <0.01 | 0.32 | <0.01 | 0.25 | <0.01 | 0.47 | <0.01 |
| 一次調査 | 二次調査 | 育児セルフエフェカシー | 0.37 | <0.01 | 0.37 | <0.01 | 0.32 | <0.01 | 0.48 | <0.01 |
| | | | 0.25 | <0.01 | 0.32 | <0.01 | 0.27 | <0.01 | 0.43 | <0.01 |
| 一次調査 | 二次調査 | 近くの支援者 | 0.25 | <0.01 | 0.25 | <0.01 | 0.24 | 0.01 | 0.31 | <0.01 |
| | | | 0.08 | 0.33 | 0.16 | 0.05 | 0.14 | 0.09 | 0.16 | 0.05 |
| 一次調査 | 二次調査 | 尺度合計 | 0.28 | <0.01 | 0.37 | <0.01 | 0.27 | <0.01 | 0.41 | <0.01 |
| | | | 0.33 | <0.01 | 0.34 | <0.01 | 0.25 | <0.01 | 0.45 | <0.01 |

3) 母親の虐待傾向養育態度質問項目とPSIの相関

母親の虐待傾向養育態度尺度とPSIの尺度の相関は、肯定文の質問文で作成された母親の虐待傾向養育態度尺度と否定的な文で構成されているPSIとの間でマイナスの相関が認められた。母親の虐待傾向養育態度尺度合計得点とPSIの子どもに関わる下位尺度合計得点は、-0.35 (P<0.01)、であり、親自身に関わる下位尺度合計得点は、-0.27 (P<0.01)と、中程度の相関があった。母親の虐待傾向養育態度尺度合計得点とPSIの合計得点とのSpearmanの相関係数は、-0.36 (P<0.01)と中程度の相関が認められた。この相関係数は、母親の養育態度尺度合計得点と児童虐待リスクスクリーニング尺度合計得点との相関0.45に類似した結果となった。

母親の虐待傾向養育態度尺度の下位尺度得点とPSI得点では、「力に頼らない養育態度」と子どもに関わる下位尺度合計得点との相関が-0.24 (P<0.01)であり、

「自己抑制を教える養育態度」とは0.26 (P<0.01)、「自己肯定感を育む養育態度」とは、0.22 (P<0.01)と中程度の相関があり、P値はともに有意差が認められた。親自身に関わる下位尺度合計得点との相関では、「力に頼らない養育態度」とは-0.18 (P=0.05)とやや弱い相関があり、「自己肯定感を育む養育態度」とは0.24 (P<0.01)、「自己抑制を教える養育態度」とは0.24 (P<0.01)と中程度の相関が認められた。母親の虐待傾向養育態度尺度の3つの下位尺度とPSIの2つの下位尺度は、「力に頼らない養育態度」と親自身にかかわる下位尺度合計得点がやや弱い相関であったが、他の下位尺度間では中程度の相関があり、有意差はともに認められた。(表6)。

4) 児童虐待リスクスクリーニング尺度とPSIの相関
児童虐待リスクスクリーニング尺度とPSIの合計得点

表6. 母親の虐待傾向養育態度質問項目とPSIのSpearman相関係数 (n=152)

| 虐待リスク下位尺度 | 力に頼らない 養育態度 | P値 | 自己肯定感を 育む養育態度 | P値 | 自己抑制を教える 養育態度 | P値 | 尺度合計 | P値 |
|----------------------|----------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|-------|-------|
| PSI | | | | | | | | |
| C-1: 親を喜ばせる反応が少ない | -0.17 | 0.04 | -0.37 | <0.01 | -0.16 | 0.05 | -0.33 | <0.01 |
| C-2: 子供の機嫌の悪さ | -0.14 | 0.09 | -0.12 | 0.16 | -0.19 | 0.03 | -0.23 | <0.01 |
| C-3: 子供が期待通りに行かない | -0.20 | 0.02 | -0.23 | <0.01 | -0.23 | <0.01 | -0.30 | <0.01 |
| C-4: 子供の気が散りやすい/多動 | -0.07 | 0.42 | -0.01 | 0.94 | -0.23 | <0.01 | -0.10 | 0.22 |
| C-5: 親につきまとう/人に慣れにくい | -0.14 | 0.09 | -0.17 | 0.03 | -0.22 | <0.01 | -0.25 | <0.01 |
| C-6: 子供に問題を感じる | -0.26 | <0.01 | -0.14 | 0.09 | -0.19 | 0.02 | -0.27 | <0.01 |
| C-7: 刺激に過敏に反応/慣れにくい | -0.20 | 0.02 | -0.24 | <0.01 | -0.12 | 0.15 | -0.30 | 0.01 |
| C-a: C-1~C-7の合計 | -0.24 | <0.01 | -0.22 | <0.01 | -0.26 | <0.01 | -0.35 | <0.01 |
| P-1: 親役割によって生じる規制 | -0.06 | 0.48 | -0.05 | 0.57 | -0.19 | 0.02 | -0.08 | 0.35 |
| P-2: 社会的孤立 | -0.09 | 0.27 | -0.23 | <0.01 | -0.23 | <0.01 | -0.21 | 0.01 |
| P-3: 配偶者との関係 | -0.10 | 0.25 | -0.15 | 0.07 | -0.18 | 0.04 | -0.17 | 0.04 |
| P-4: 親としての有能さ | -0.19 | 0.03 | -0.30 | <0.01 | -0.16 | 0.05 | -0.29 | <0.01 |
| P-5: 抑うつ・罪悪感 | -0.20 | 0.02 | -0.19 | 0.02 | -0.24 | <0.01 | -0.28 | <0.01 |
| P-6: 退院後の気持ち | -0.14 | 0.09 | -0.18 | 0.03 | -0.18 | 0.02 | -0.23 | <0.01 |
| P-7: 子供に愛着を感じにくい | -0.13 | 0.12 | -0.19 | 0.02 | -0.06 | 0.44 | -0.15 | 0.08 |
| P-8: 健康状態 | -0.08 | 0.34 | -0.06 | 0.50 | -0.02 | 0.78 | -0.02 | 0.83 |
| P-a: P-1~P-8の合計 | -0.18 | 0.05 | -0.24 | <0.01 | -0.24 | <0.01 | -0.27 | <0.01 |
| A11: 総得点 | -0.26 | <0.01 | -0.25 | <0.01 | -0.28 | <0.01 | -0.36 | <0.01 |

表7. 児童虐待リスクスクリーニング尺度とPSIのSpearman相関係数 (n=152)

| PSI | 虐待リスク下位尺度 | | 育児セルフエフェカシー | | 近くの支援者 | | 合計 | P値 |
|----------------------|-----------|--------|-------------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 被養育経験 | P値 | | P値 | | P値 | | |
| C-1: 親を喜ばせる反応が少ない | -0.42 | <0.01 | -0.36 | <0.01 | -0.20 | 0.01 | -0.44 | <0.01 |
| C-2: 子供の機嫌の悪さ | -0.29 | <0.01 | -0.28 | <0.01 | -0.17 | 0.04 | -0.35 | <0.01 |
| C-3: 子供が期待通りに行かない | -0.41 | <0.01 | -0.33 | <0.01 | -0.20 | 0.01 | -0.44 | <0.01 |
| C-4: 子供の気が散りやすい/多動 | -0.16 | P=0.06 | -0.10 | 0.23 | -0.02 | 0.85 | -0.15 | 0.09 |
| C-5: 親につきまとう/人に慣れにくい | -0.21 | <0.01 | -0.40 | <0.01 | -0.28 | <0.01 | -0.35 | <0.01 |
| C-6: 子供に問題を感じる | -0.22 | <0.01 | -0.22 | <0.01 | -0.35 | <0.01 | -0.30 | <0.01 |
| C-7: 刺激に過敏に反応/慣れにくい | -0.32 | <0.01 | -0.32 | <0.01 | -0.43 | <0.01 | -0.45 | <0.01 |
| C-a: C-1~C-7の合計 | -0.38 | <0.01 | -0.39 | <0.01 | -0.43 | <0.01 | -0.47 | <0.01 |
| P-1: 親役割によって生じる規制 | -0.22 | <0.01 | -0.22 | <0.01 | -0.31 | <0.01 | -0.41 | <0.01 |
| P-2: 社会的孤立 | -0.34 | <0.01 | -0.34 | <0.01 | -0.52 | <0.01 | -0.58 | <0.01 |
| P-3: 配偶者との関係 | -0.19 | 0.02 | -0.19 | 0.02 | -0.49 | <0.01 | -0.36 | <0.01 |
| P-4: 親としての有能さ | -0.38 | <0.01 | -0.38 | <0.01 | -0.49 | <0.01 | -0.48 | <0.01 |
| P-5: 抑うつ・罪悪感 | -0.24 | <0.01 | -0.24 | <0.01 | -0.39 | <0.01 | -0.39 | <0.01 |
| P-6: 退院後の気持ち | -0.24 | <0.01 | -0.24 | <0.01 | -0.32 | <0.01 | -0.32 | <0.01 |
| P-7: 子供に愛着を感じにくい | -0.19 | 0.03 | -0.19 | 0.03 | -0.32 | 0.01 | -0.32 | <0.01 |
| P-8: 健康状態 | -0.01 | 0.95 | -0.01 | 0.96 | -0.44 | <0.01 | -0.24 | <0.01 |
| P-a: P-1~P-8の合計 | -0.35 | <0.01 | -0.35 | <0.01 | -0.63 | <0.01 | -0.60 | <0.01 |
| A11: 総得点 | -0.44 | <0.01 | -0.44 | <0.01 | -0.62 | <0.01 | -0.61 | <0.01 |

との相関係数は、 -0.61 ($P<0.01$) と高い相関が認められた。児童虐待リスクスクリーニング尺度合計得点とPSIの子どもに関わる下位尺度合計得点は、 -0.47 ($P<0.01$)、親自身に関わる下位尺度合計得点は、 -0.60 ($P<0.01$) と、ともに高い相関が認められた。児童虐待リスクスクリーニング尺度の下位尺度得点とPSI得点では、「被養育経験」とPSIの子どもに関わる下位尺度合計得点との相関は、 -0.38 ($P<0.01$) であり、親自身に関わる下位尺度合計得点とは -0.35 ($P<0.01$) と中程度の相関であり、PSI尺度合計とは -0.44 ($P<0.01$) と中程度の相関が認められた。「育児セルフエフェカシー」と子どもに関わる下位尺度合計得点との相関は -0.39 ($P<0.01$) で、親自身に関わる下位尺度合計得点とは -0.35 ($P<0.01$) と同様に中程度の相関があり、PSI尺度合計とは -0.44 ($P<0.01$) と中程度の相関が認められた。「近くの支援者」と子どもに関わる下位尺度合計得点との相関は -0.43 ($P<0.01$) であり中程度の相関が認められた。親自身にかかわる下位尺度合計得点とは -0.63 ($P<0.01$)、PSIの総得点とは -0.62 ($P<0.01$) と高い相関が認められた(表7)。これらの結果と、母親の虐待傾向養育態度尺度とPSIの相関性と有意差から、PSIは児童虐待リスクスクリーニング尺度の外部基準尺度として有効であり、児童虐待リスクスクリーニング尺度の妥当性が検証されたと言える。

4. 考 察

潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度の再現性による信頼性は、2つの尺度の相関係数が尺度合計得点間で開発時の0.41とほぼ同じ0.45であり尺度の再現性は検証された。しかし、母親の虐待傾向養育態度尺度総得点

と本尺度の下位尺度間では、開発時の結果より「被養育経験」と母親の虐待傾向養育態度との相関が高く「近くの支援者」との相関が開発時よりも相関が低い結果であった。特に「近くの支援者」は「力に頼らない養育態度」とは0.08と相関が認められず、開発時の結果0.25と比較すると大きな相違点であった。「近くの支援者」は、設問数が4項目少なく、本調査の対象規模では、得点差が出にくいことが考えられる。また、「近くの支援者」はサポート資源として重要な因子であるが、「被養育経験」と養育態度の相関の高さを考慮すると、対象集団によっては、支援者がいても虐待傾向がある可能性と、支援者が少なくとも自分なりのストレス管理ができて虐待傾向とならない可能性が推察される。母親の養育態度の「力に頼らない養育態度」は、母親の力によるしつけに対する自己の認知とも関連している。母親自身が、子ども時代に力によるしつけを日常的に受けていると無意識の中で同じしつけを行いやすい^{9,10)}。そのようなケースでは、力によるしつけに近くの育児支援者の存在の影響は少ない可能性もある。他の下位尺度は、開発時とほぼ同じ結果で有意差があり、対象施設や対象数の課題はあるが、本尺度の信頼性を確認する事はある程度できたと考えられる。今後は、下位尺度の構成概念妥当性を検証していくことが課題であり、対象施設を拡大する、育児相談と尺度との併用などを行う必要である。本研究では、薬物依存症の回復過程の母親6名の協力が得られたものの、欠損データが多く解析対象にはならなかったが、得点を詳細に見ていくと「力による養育態度」得点は非常に高く、依存症や精神障害をもつ母親には自記式ではなく、聞き取り調査を考える必要性も示唆された。

育児ストレスと母親の虐待的養育態度との関連性を確

認した結果では、母親の養育態度尺度とPSIは中程度の相関があり、育児ストレスと児童虐待の関連性に関する文献^{1,5,6,11,12,15)}の結果と同様に、育児ストレスが虐待傾向養育態度に影響していることを示す結果であった。PSIの子どもに関わる下位尺度と、母親の養育態度尺度の「力に頼らない養育態度」「自己肯定感を育む養育態度」「自己抑制を教える養育態度」の相関は、 -0.22 から -0.26 であり、親自身に関わる下位尺度との相関は、 -0.18 から -0.24 とほぼ同じ相関があり、育児ストレスは、子どもに関わるストレスと母親自身に関するストレスが、母親の養育態度に同じように影響していることが伺われた。この結果は、PSIが母親の児童虐待傾向をスクリーニングできることを示しているため、PSIが児童虐待リスクスクリーニング尺度の妥当性を検証するために、基準関連尺度として妥当であることを示唆した結果である。

児童虐待リスクスクリーニング尺度の基準関連尺度としてPSIとの相関は、児童虐待リスクスクリーニング尺度合計得点とPSIの子どもに関わるストレス下位尺度合計得点、親自身に関するストレス下位尺度合計得点、PSI総合得点ともに高い相関が確認された。特に、子どもに関わる下位尺度は -0.47 でマイナスの中程度の相関であり、親自身に関わる下位尺度は -0.60 と高い相関を示していた。これは、児童虐待リスクスクリーニング尺度が、母親自身の認知している育児支援や被養育経験、育児セルフエフェカシーで構成されていることに関連している結果と考えられる。児童虐待リスクスクリーニング尺度の下位尺度「被養育経験」とPSIの子どもに関わる下位尺度得点、親自身に関する下位尺度得点は同程度の相関があり、尺度合計得点とも -0.44 と相関は高く有意差があった。「育児セルフエフェカシー」とPSIの子どもに関わる下位尺度得点、親自身に関する下位尺度得点も同程度の相関があり尺度合計得点とも「力に頼らない養育態度」と同じ -0.44 と相関は高く有意差があった。「近くの支援者」は、PSIの子どもに関わる下位尺度得点との相関は -0.43 と高い相関があったが、親自身に関する下位尺度得点との相関は -0.63 と特に高い相関を示した。これは、母親の養育態度にはPSIの2つの下位尺度は同じ程度に影響するが、母親自身の育児によって生じるストレスには、「近くの支援者」の存在が強く影響する結果と言える。「近くの支援者」が養育態度に直接影響しなくても、親の心の安定や支援者がいる安心感を考えると、母と子のwell-beingには「近くの支援者」は重要な因子であると考えられる。PSIの15の下位尺度項目はC-4「子どもの気が散りやすい/多動」は0.16であったが、それ以外の14下位尺度項目で0.24から0.58と中程度から高い相関があった。C-4「子どもの気が散りやすい/多動」は、相関性があまり高くなかったが、これは対象施設に多動傾向の子どもが少なかった可能性がある。研究者が本研究中に行った育児相談でも、本調査前後は、

依然あった落ち着きがない、活発すぎるなどの相談は少なかった。今後は、発達障害児やその疑いのある子どもを育児中の母親を対象に含む研究も必要である。しかし、基準関連尺度であるPSIとの相関は -0.61 と高く、有意差が認められ児童虐待リスクスクリーニング尺度の妥当性が検証された。課題として、「近くの支援者」と母親の養育態度との関連性をより明確にしていく必要がある。

育児ストレスは児童虐待の重要なリスクであることが検証された。PSIは地域で活用するにはコストがかかり現実的ではないことから、母親のもつ問題傾向が下位尺度から予測できる潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度の活用も可能であると考えられる。本尺度の構成概念妥当性は、研究を積み重ねていくことによって検証できるものであり今後の課題としたい。

5. 本研究の限界と課題

- 1) 開発途上の潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度は、潜在的な虐待リスク群と予備軍の母親をスクリーニングすることを目的としているが、調査の対象が幼稚園児の母親だけであり、保育所通所児、自宅保育児の母親の調査が不足している。特に自宅保育児の母親への調査は大きな課題である。
- 2) 依存症は、潜在的虐待発生のハイリスク因子であるが、今回の研究では有意な相関は認められなかった。二次調査対象では、依存症の既往のある母親12名の調査協力を得られたが、回答の欠損値が多く解析対象に含めることができなかった。今後は、少数であってもインタビューや薬物依存リハビリセンターであるDARC組織内にある「女性ダルク」との連携による調査などの方策を考えて依存症と児童虐待リスクの関連性を検証していく必要がある。
- 3) 本尺度は開発途上であり、今後さらに調査範囲を広くした研究を継続して尺度の構成概念妥当性の検討を行っていくことが必要である。特に「近くの支援者」と母親の虐待傾向養育態度との関連を検証することは大きな課題となった。
- 4) 今後は、育児相談などを通して育児ストレスと養育態度の関連性を、母親のストレスとコーピング、ストレス管理に関する質的な研究を行い尺度の内容妥当性と構成概念の妥当性をさらに検証していく必要がある。

参考文献

- 1) Abidin R.: Parenting stress index manual third ed. Pediatric Psychology Press. Charlottesville, VA 1990
- 2) 荒木暁子, 兼松百合子, 横沢せい子他: 日本語版 Parenting Stress Indexスコアと自由記載の関係から見る乳幼児の母親の育児ストレス. 家族看護学研究, 11(1): 24-33, 2005
- 3) 花田裕子, 小西美智子: 母親の養育態度における潜

- 在的虐待リスクスクリーニング質問紙の信頼性と妥当性の検討. 広島大学保健学ジャーナル, 3 (1) : 55-626, 2001
- 4) 花田裕子, 小野ミツ, 本田純久: 潜在的児童虐待リスクスクリーニング尺度作成についての検討. 子どもの虐待とネグレクト, 8(2) : 247-257, 2004
- 5) Haskett, ME., Scott, SS. and Fann, KD. : Child Abuse Potential Inventory and Parenting Behavior : Relationships with High-risk Correlates. *Child Abuse & Neglect*, 19(12) : 1483-1495, 1995
- 6) Haskett, M., Smith, S. and Grant, R. et al. : Child-related cognitions and affective functioning of physically abusive and comparison parents. *Child Abuse & Neglect*, 27(6) : 663-686, 2003
- 7) Hillson, JMC. and Kuiper, NA. : A stress and coping model of child maltreatment. *Clinical Psychology Review*, (14) : 261-285, 1994
- 8) Karson, M. : Patterns of child abuse. How dysfunctional transactions are replicated in individuals, families, and the child welfare system. Binghamton NY, The Haworth Press, 2001
- 9) 北村俊則, 鈴木忠治 : 日本語版 Social Desirability Scale について. *社会精神医学*, 9(2) : 173-180, 1986
- 10) 厚生省児童家庭局 : 子ども虐待対応の手引き. 財団法人 日本児童福祉協会, 19-23, 1999
- 11) Lazarus S, Folkman S. : *Stress, Appraisal, and Coping*. Spring Publishing Company. New York, 1984 (Japanese translation by Jitumu kyoiku publishing Tokyo) pp.88-114, 1991
- 12) Montes, P., Joaquin, P. and Milner, J. : Evaluations, attributions, affect, and disciplinary choices in mothers at high and low risk for child physical abuse. *Child Abuse & Neglect*, 25 : 1015-1036, 2001
- 13) 奈良間美保, 兼松百合子, 荒木暁子他 : 日本版 Parenting Stress Index (PSI) の信頼性・妥当性の検討. *小児保健研究*, 58(5) : 610-616, 1999
- 14) Stern Susan B., & Azar Sandra T. : Integrating cognitive strategies into behavioral treatment for abusive parents and families with aggressive adolescents. *Clinical Child Psychology and Psychiatry* (3), 87-403, 1998
- 15) Webster-Stratton, C. : The Role of Parental Stress in Physically Abuse Families. *Child Abuse & Neglect*, 15(3) : 279-291, 1991

The reliability and validity of Child abuse risk Potential screening scale

Hiroko HANADA¹, Masaharu NAGAE¹, Kazuyo OISHI¹, Sumihisa HONDA²

1 Division of Nursing, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

2 Institute of tropical medicine, Nagasaki University

Received 23 January 2007

Accepted 22 March 2007

Abstract A lot of research results show that the parenting stress is an important child abuse factor. In the research of Japan, the research to verify the relation between the child abuse risk and the parenting stress still made potential is a little. This research aimed to verify validity related to the standard of the potential child abuse risk screening scale to which the researcher was advancing development according to the parenting stress Index (PSI), and to clarify the relation between the potential child abuse risk and the parenting stress. The object made 152 mothers of the expert kindergartener in two kindergartens an analytical object. Mother's age is 33.9 years old (23-43 SD=4.0). The mother's cruelty tendency upbringing attitude standard score was 52 (29-74). The child abuse risk screening scale score was 72 (29-105). An integrated score of PSI was mean value 186 (120-148). The correlation 0.45 (P<0.01) the correlation coefficient of Spearman of the child abuse risk screening scale and mother's cruelty tendency upbringing attitude standard, and becoming almost the same result as 0.41 when developing was admitted and reproducibility was confirmed. As for the child abuse risk screening scale and the correlation coefficient of Spearman with the total score of PSI, -0.61 (P<0.01) and a high correlation were admitted.

Health Science Research 19(2): 51-58, 2007

Key Words : Child Abuse, Parenting Stress, Risk Factor, Mother, Infant